

高レベル放射性廃棄物処分に関する市民と専門家の対話と協働による 政策オプションの検討

A study for policy deliberation on high level waste disposal through dialogue and collaboration
between citizens and experts

*渡辺 凜¹, 寿楽 浩太²

¹東京大学, ²東京電機大学

抄録

本研究は、高レベル放射性廃棄（HLW）物処分政策の改善における市民と専門家の協働に向けた実践的調査である。既実施の調査で得られた市民の意見を関連分野の専門家に提示し、それを実現する方策の聞き取りを行った。市民と専門家の協働の促進に向けて得られた情報を整理する方法も含めて報告する。

キーワード：高レベル放射性廃棄物処分政策，市民，対話，協働

1. 緒言

日本における HLW の最終処分政策は、2002 年の調査候補地の選定プロセスの立ち上げ以来、調査を受け容れる自治体を求めて情報提供や地域振興策の拡充等の様々な取り組みを行ってきたが、プロセスの具体的な前進を見ていない。先行研究では現行の政策枠組みの限界も指摘されており、政策の根本的な再検討を行うことも必要だと考えられる。そして、この際に市民の意見を適確に反映することが重要である。そこで、本研究では、東海村で市民の意見を調査した結果[1]について、それを建設的で有意義な適切な形で専門家に届ける方法を提案し、「どのように市民の意見を具現することができるか」を検討した。この手法については2015年秋の大会で報告したが、今回は実際にそれに基づいて実施した調査の結果を報告する。

2. 専門家インタビューの方法

専門家インタビューでは、上記の市民インタビューの結果（「市民の意見」という）をいくつかの原則に整理して提示し、それを具現する技術的・政策的手段（政策オプション）やその実現の見通し、利害得失を尋ねた。地層処分技術、群分離・核変換等、「市民の意見」に関連する分野を専門とし、大学、研究所、HLW 処分の実施主体等の機関に所属する 18 人の専門家の協力を得た。

3. 専門家インタビューの結果と政策オプションの検討

専門家インタビューの結果、様々な分野の発想や知見を踏まえた、「市民の意見」を具現するための具体的方法についての示唆が得られた。例えば、HLW の再利用や減量、あるいは HLW 処分に関する負担のより公平な分担を求める市民の意見に対して、低レベル放射性廃棄物を含む原子力発電システム全体での減量と、クリアランスレベルの廃棄物の再利用を通じた全国的な“負担の分担”という提案があった。

本研究では、こうした専門家の見解を市民との協働に活かすため、インタビュー結果を「従来の HLW 処分政策のどの要素を改善の対象としているか」によって分類した。さらに、問題の全体像を把握する知識を必ずしも持ち合わせない市民の参加を促進するため、この分類の結果をもとに、複数の「主要な代替案をまとめた政策パッケージの仮案」を複数、作成した。この仮案により市民と専門家がより対等に近い立場で、より建設的に行えると期待される。

参考文献

[1] 渡辺凜, 寿楽浩太(2015)「どのような高レベル放射性廃棄物の“処分”が望ましいのか ―東海村における市民の意見の調査と分析―」. 平成 26 年度東海村「地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業」成果報告書.

*Rin Watanabe¹ and Kohta Juraku²

¹ Tokyo Univ., ²Tokyo Denki Univ.